

社会保障論			単位数	履修方法	配当学年
			4単位	R or SR	3年以上
科目コード	CA4107	担当教員	阿部 裕二		



■科目の内容

私たちの国の社会保障制度は、進展している少子高齢化のなかで構造的な転換期を迎えており、「社会保障革命」といふべき各種の見直しが行われています。例えば、2000年には介護保険が創設され、近年においても年金制度や医療（保険）制度なども改革の道を歩んでいます。まさに新しい生活保障システムが求められている時代ともいえるでしょう。とはいえ、「構造的な転換期」だからこそ原点に立ち返り、「社会保障とは何か」の古典的な議論も必要であると思われます。

そこで、本科目においては、社会保障の考え方や歴史等を踏まえて、「社会保障とは何か」をともに考え、その上で、各種社会保障制度の現状と課題について学んでいただきたいと思います。

■到達目標

- 1) 社会保障における理念を説明することができる。
- 2) 社会保障制度の仕組みと問題点を端的に説明することができる。
- 3) 日常生活のなかでの社会保障の役割を説明することができる。
- 4) 少子高齢社会におけるあるべき生活保障システムを自らの言葉で説明することができる。

■教科書

福祉臨床シリーズ編集委員会編『社会保障〈第4版〉(社会福祉士シリーズ12)』弘文堂、2015年
(最近の教科書変更時期) 2015年4月

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	社会の変容 (第10章)	社会保障を学ぶ前に、社会保障を取り巻く私たちの生活環境の変化を理解する。 キーワード：少子高齢化、就業構造、ワークライフバランス、国際化など	少子高齢化、人口減少、就業構造（形態）の多様化など、私の生活環境は変化し続けています。これらの生活環境の変化を理解し、これらから学ぶ社会保障の前提を把握しましょう。
2	社会保障とは何か (序章および第1章)	生活を取り巻くリスクと社会保障の関係性について理解するとともに、社会保障の概念及び理念の多様性を理解する。 キーワード：長生きのリスク、歴史的形成本、最低生活保障、ナショナル・ミニマムとオプティマム、普遍主義と選別主義、ノーマライゼーションなど	社会保障は、私たちの生活を取り巻くリスクに対応していることを確認するとともに、その社会保障がどのような定義付けがなされるのか（その際、昔の定義と現在の定義に違いがあるのかに留意しつつ）、そして社会保障を支える理念にはどのようなものがあるのかについて考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	社会保障の歩み (序章および第1章)	イギリスを中心とした欧米と日本の社会保障のそれぞれの歴史を理解する。 キーワード：救貧法、失業法、ベヴァリッジ報告、国民皆保険・皆年金など	貧困観の変遷及び社会保険と公的扶助の統合の視点から、イギリスを中心とした欧米の社会保障と日本の社会保障のそれぞれの歴史（特徴）について学びましょう。
4	社会保障制度の体系と機能 (第2章)	社会保障の方法と現代社会における社会保障の役割を理解する。 キーワード：保険と扶助、機能別・給付形態別社会保障など	社会保障の目的を果たすために、どのような保障方法があるのかを理解します。その際、社会保険と社会扶助についてもその特徴をふまえながら、学びます。さらに、このような社会保障が現代社会においていかなる役割を果たしているかについて理解することが重要です。
5	公的年金保険（国民年金）の仕組み (第3章)	わが国の公的年金の制度体系を理解するとともに、年金保険制度特に国民年金の仕組みを理解する。 キーワード：賦課方式と積立方式、第3号被保険者、基礎年金、国民年金基金など	年金保険が対応する事故を把握しつつ、二階建ての公的年金の構造を理解します。また、国民年金の給付内容を含めた仕組みについて理解を深めましょう。
6	公的年金保険（厚生年金保険）の仕組みと諸課題 (第3章)	厚生年金保険の仕組みと、公的年金が抱える問題点について理解する。 キーワード：標準報酬、保険料率、老齢厚生年金、障害厚生年金、遺族厚生年金、厚生年金基金、空洞化など	厚生年金保険の仕組み、つまり保険者、被保険者、保険料、給付内容等について学びます。その際、国民年金と比較しながら整理をすると理解が深まります。また、同時に、公的年金が抱える問題点についても人口の変動、空洞化、国際化の観点から考察してみてください。
7	医療保険制度の現状と制度体系 (第4章)	わが国の医療保険制度の仕組みを理解しつつ、医療保険制度の体系について整理する。 キーワード：診療報酬、審査支払機関、出来高払い、薬価基準など	私たちの生命や身体そして健康を保持するための医療とそれを支える社会保障はどのような構造か、さらにわが国の国民医療を支える医療保険はどのような仕組みで作られているのか等について学びます。その際、世界の中で日本はどのような特徴をもっているのかという観点からも考察してみてください。
8	被用者保険と国民健康保険、高齢者医療の仕組み (第4章)	医療保険の具体的制度の内容について理解します。 キーワード：現物給付と現金給付及び医療費償還（立替）、前期高齢者、後期高齢者、特定健康診査及び特定保健指導など	被用者保険（健康保険等）と国民健康保険の内容について理解に努めます。また、高齢者の医療制度を前期高齢者医療と後期高齢者医療制度の側面からまとめます。その際、各々の制度の類似点と相違点を意識しながら整理することが肝要です。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
9	公費負担医療と医療の供給体制及び諸問題 (第4章)	特定目的のため、国や地方自治体の公費により、医療費の一部または全部負担する制度を理解するとともに、医療の供給体制について学ぶ。 キーワード：公費負担医療、公衆衛生、医療提供施設、医療計画、医療従事者、メディカル、コメディカル、インフォームド・コンセントなど	医療保険以外の保健事業を概観しませぬ。また、国民に対して、良質かつ適切な医療を提供するための医療施設と、医療を担う医療関係者について学ばるとともに、医療保険が抱える諸問題について理解することが重要でせう。
10	介護保険の現状と課題 (第5章)	介護保険の成立背景と理念およびその内容について学ばう。 キーワード：高齢者介護、スティグマ、社会的入院、介護の社会化、自立支援、利用者本位、地域包括ケアなど	介護保険がいかなる背景において登場したのか、そして現在ある介護保険はどのような理念のもとに展開されているのかを学ばう。その際、その理念に潜む問題点についても考察してください。また、近年、介護保険の改正が相次いでいますが、その改正の内容と意図するところを考察してみてください。そして、改正が私たちの生活にどのような影響をもたらすのかも考えてみましょう。
11	労働保険制度 (第6章)	労働保険制度の概要と問題点を理解する。 キーワード：雇用保険、労働者災害補償保険	雇用されて働くことは、さまざまナリスクがつきまといませう。労働保険は雇用されている人々にとっては重要な制度といえませう。その労働保険制度に含まれる雇用保険と労働者災害補償保険の仕組みと、それぞれが抱える問題点についてまとめてみましょう。これらは万能策ではないことが理解されるはずでせう。
12	社会扶助の現状と課題 (第7章)	日本の社会扶助（社会手当、公的扶助、社会福祉）の仕組みを理解する。 キーワード：児童手当、生活保護、措置制度、契約制度	ここでは、社会保険とは異なる社会扶助の仕組みを理解することに努めませう。その際、社会保険と比較しつつ理解するとよいでしょう。また、社会福祉の制度が「措置」から「契約」へと基本的なサービス提供の方法において、大きく変化を遂げていることに留意しながら理解することが肝要でせう。
13	社会保険と民間保険 (第8章)	民間保険の仕組みを理解しつつ、その内容を整理する。 キーワード：給付・反対給付均等の原則、生命保険、損害保険、第三分野保険、確定給付企業年金、確定拠出年金など	より安定した暮らしのための民間保険が重視されていますが、民間保険の仕組みと役割の理解が重要でせう。その上で、具体的な民間保険制度としての生命保険、損害保険、第三分野保険などの制度の特徴についてまとめることが重要でせう。そして、社会保険と民間保険の関係性について、あるべき姿を含めて自ら考えてみてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	社会保障の管理運営体制と民間保険 (第9章)	社会保障の管理および実施体制と専門職を学ぶ。 キーワード：厚生労働省、全国健康保険協会、日本年金機構、公共職業安定所、労働基準監督署、審議会、地方行政機構、権利擁護など	社会保障の行政機構の中心は厚生労働省ですが、実施機関はさまざまな機関が存在します。各種社会保険にはどのような実施機関があるのか、また、そのような組織において権利が擁護されているのかなどをまとめてください。
15	諸外国の社会保障とまとめ (第11章など)	諸外国の社会保障を概観しながら、日本社会保障および福祉国家の特徴を把握する。 キーワード：エスピン・アンデルセン、自由主義的福祉レジーム、保守主義的福祉レジーム、社会民主主義的福祉レジームなど	諸外国における社会保障制度をみる際に、類型化させながらみると特徴の把握がしやすくなります。したがって、エスピン・アンデルセンの類型に従って、各国の社会保障の特徴の把握に努めましょう。そして、わが国と比較してみるとよいでしょう。その上で、これまでの学びから、自分自身が考えるべき社会保障の姿を構築してみてください。

■レポート課題

1 単位め	私たちの生活環境の変化を踏まえながら、社会保障をどのように理解したらよいか。そして、現代社会において社会保障（制度）が果たしている役割について述べなさい。
2 単位め	イギリスと日本の社会保障の歩みを概観し、貧困観の変遷や社会保険と公的扶助の統合の仕方に留意しつつ、社会保障の成立過程にみられた特徴をそれぞれ述べなさい。
3 単位め	社会保障制度（例えば、年金、医療、雇用、労災、介護、生活保護など）のなかで、興味のある分野を1つ選び、その現状と課題について述べなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可
4 単位め	少子高齢化の進展のなかで、わが国の社会保障制度はいかにあるべきか、社会保障の理念を踏まえながら各自の見解を述べなさい。 ※スクーリング受講者専用「別レポート」対象課題・web 解答可

■アドバイス

私たちの生活にとって、社会保障はいまや欠かすことのできない基礎的な社会制度になっています。「社会保障はなぜ今のようなシステムに発展してきたのか。社会保障をめぐってどのような考え方があるのか、あったのか。そして現代社会において社会保障はどのような意義や役割をもっているのか」—社会保障論を学ぶときには、まず、このような視点が必要であると思われます。

歴史的形成体（歴史的産物）として成立・発展してきた社会保障は、少子高齢化の進展、財政危機、国際化という荒波の中で、その枠組みを構造的に変革しようとしています。しかし、このような構造的に転換期にある社会保障であるからこそ、上述したように「社会保障は一体何なのか」からの議論が求められているのであり、それを踏まえて歴史的形成体としての社会保障の枠組みを考察してみてください。

このように、レポート課題に取り組むに当たって、社会保障の各制度の仕組みや内容、そして各制度が抱えている課題に関しても着目する必要は当然ありますが、「社会保障とは何か、そして生活保障のシステムのなかで社会保障はどのように位置づけられるのか」を念頭におくことも重要です。「公的

扶助論」においても記述しましたが、特に社会福祉士等の国家資格を目指している受講生の皆さんは、レポート課題だけを取り組むのではなく、テキストの内容のすべてを理解することに努めてください。

いずれにしても、これから学ぼうとしている「社会保障論」は、きわめて私たちの生活にとって身近な領域といえます。したがって、レポートを作成する際には、自らの問題として引き寄せて考えると、一層取り組みやすくなるでしょう。

なお、社会保障の各制度の内容は、毎年改正されていますので、テキストの他に「最新の資料」（後述）などで補足することが必要となります。

1 単位め アドバイス

この課題に関しては、テキストの序章、第1章、第2章、第10章を参照してください。

私たちは、あまり意識せず「社会保障」という言葉を使っていますが、改めて社会保障とは何かを考えてみましょう。今日の私たちの生活（社会保障を取り巻く環境）は、少子・高齢化、逼迫する財政問題などを背景にして荒波の中にありますが、まずこのような環境の変化の中で、社会保障がどのように定義づけられるのかを整理してみてください。その上で、社会保障（社会保険と公的扶助の役割にも注意を払いながら）が現代社会の中でどのような役割（機能）を果たしているか、をまとめてください。

2 単位め アドバイス

この課題に関しては、テキストの第1章を参照してください。

社会保障の歴史を考察する場合、どの時代まで遡るのかについては議論のあるところですが、テキストでは、イギリスが救貧法（エリザベス救貧法）、そして日本が恤救規則（それ以前の記述も若干してありますが）を出発点としています。

2単位めの課題は、イギリスと日本の社会保障の成立過程における特質を述べることです。その際、歴史を漫然と考察、略記するのではなく、項目ごとに整理するとよいでしょう。例えば、イギリスの場合でいうと、救貧法の時代から社会保険の登場、社会保険から社会保障への展開というような分類です。このような分類の下で、貧困観がどのように変遷してきたか、また社会保険と公的扶助がどのように統合されてきたかを切り口としてまとめてみてください。日本の場合は、第二次世界大戦以前と以降の分類になるかと思えます。

特にまとめづらいのではないかとと思われるのは、社会保険と公的扶助の統合の切り口かもしれませんが、この点に関しては、両者が統合するときに「結びつけるもの（接着剤）」が存在したか否か（統合なのか、寄せ集めなのか）などを意識しながら考察することが肝要です。なお、この2単位めの課題については、森健一・阿部裕二著『構造的転換期の社会保障——その理論と現実』（中央法規出版、2002年＜その後増刷＞）の第6章、第7章も参考になります。

3 単位め アドバイス

この課題に関しては、第3章、第4章、第5章、第6章、第7章を参照して作成してください。

これらの章においては社会保障の各制度、例えば年金・医療・雇用・労災・介護保険や生活保護、社会手当としての児童手当や子ども手当などが記述されています。受講生の皆さんは、これらのなかから興味のある分野を選び、自分なりに現状と問題点、課題をまとめてみてください。

その際、上述しましたように社会保障制度は、頻繁に改正（修正）されますので、絶えず新しい資

料で補足することが肝要です。

なお、非常に幅広い分野から各自が選択することになりますが、受講生の皆さんは選択した分野だけを学ぶだけではなく、それ以外の分野も十分に学習、理解することが重要なことはいうまでもありません。念のために。

4 単位め アドバイス

この課題に関しては、テキストの全体を参照して作成してください。

これまでの学習の成果として、自分なりの社会保障のあるべき姿をまとめてみてください。わが国は、少子高齢化、財政問題、ボーダレス社会などさまざまな要因の生活環境が変化してきています。生活環境の変化によって、社会保障は構造的に転換されなければなりません。変えてはならないものもあるかもしれません。

社会保障の理念を理解しつつ、この理念をどのように、これからの社会保障に活かすべきかについても考察してみてください。自分なりのあるべき社会保障像を述べるときに、このような「変えるものと変えないもの」を意識して整理してみるのもよいでしょう。

■科目修了試験 評価基準

科目修了試験の評価は、100%試験によって行いますが、評価基準は以下の通りです。

- 1) 題意を正確に把握し、指示に従って述べられているか。
- 2) 単に暗記したものを記述するのではなく、自分なりの視点からまとめられているか。
- 3) 抽象的な表現にとまらず、現実との関連づけの視点からもまとめられているか。
- 4) 結論は感想にとまらず、根拠をもって述べられているか。

■参考図書

<社会福祉士等の国家資格を目指す人のために>

- 1) 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座12 社会保障（第4版）』中央法規出版、2014年
- 2) 棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第12版）補訂版』有斐閣アルマ、2015年

<最新情報を知りたい人のために>

- 3) 厚生統計協会編『保険と年金の動向（2015/2016年版）』厚生統計協会、2015年
- 4) 『社会保険のてびき』社会保険研究所、最新版

<概論的に教科書を補足したい人のために>

- 5) 森健一・阿部裕二著『構造的転換期の社会保障——その理論と現実』中央法規出版、2002年

※いずれの図書も、ほんの一例でしかありません。さまざまな図書を図書館や書店で探してみてもおもしろいと思います。